

節分に関連する支出

- 家計調査(二人以上の世帯)結果より -

暦の上では立春を過ぎました。しかし、日本は南北に長いため、まだまだ寒い日が続いているところもあります。

この立春、立夏、立秋、立冬の前日を「節分」といい、「季節の分かれ目」を表しますが、現在では一般的に、立春の前日を指すものとされています。そこで今回は、節分にちなんだ品目についてみてみましょう。

2月に多いいわしへの支出

節分の日には、豆まきの他に、^{ひいらぎ} 柗の枝にいわしの頭を刺したものを戸口に立てる風習があります。これは柗のトゲと、いわしの臭いで鬼を追い払うことを意味しています。また、これに由来し、主に西日本において節分にいわしを食べる風習もあります。いわしへの支出金額を、月別にみますと2月が最も多く、これらの風習が実際に行われていることがうかがえます(図1)。

「すし(弁当)」への支出金額が増加

また、節分の夜に「^{えほう} 恵方巻き」と呼ばれる太巻を、その年の吉方を向いて食べると良い1年が過ごせるといわれています。そこで、2月の「すし(弁当)」への日別支出金額をみますと、節分(3日)の支出金額は他の日と比べて極めて多くなっています。また、平成19年2月3日の支出金額は、12年同日の約2倍となっています(図2)。

飲食店以外の持ち帰りのもの。平成12年1月より集計。

近畿地方から広まる節分の風習

この「恵方巻き」を節分に食べる風習は、一説には大阪・^{せんば}船場の商人の間で始まったといわれています。そこで、2月の「すし(弁当)」への支出金額を地方別にみまますと、近畿地方は他の地方に比べて多くなっています。また、平成19年と12年を比較してみますと、関東、北陸、東海などで特に増えており、この風習が全国的に広まりつつあることによって節分の「すし(弁当)」への支出金額の増加につながっていることがうかがえます(図3)。

図1 いわしと干しいわしの月別支出金額 (平成16~18年平均)

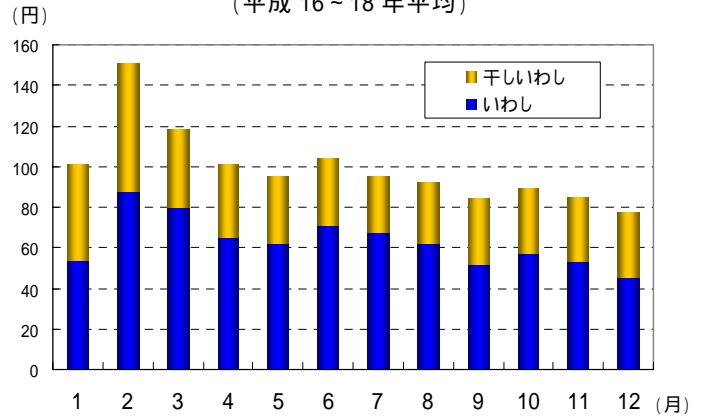


図2 2月のすし(弁当)の日別支出金額 (平成12年・19年)

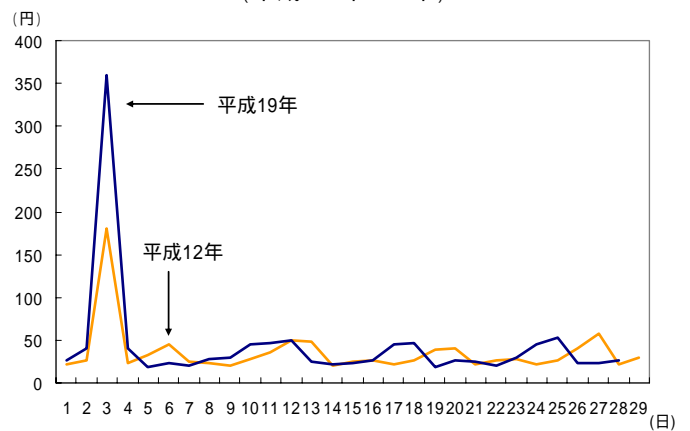


図3 2月のすし(弁当)の地方別支出金額 (平成12年・19年)

